平成 24 年度　シラバス	学年・期間・区分	２年次 ・ 前期 ・ 選択
	対象学科・専攻	機械・電子システム，電気情報システム，土木工学専攻
論理的英語コミュニケーション （Logical English Communication）	担当教員	坂元　真理子（Sakamoto , Mariko）
	教員室	図書棟２階（TEL：42-9067）
	E-Mail	sakamoto@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態／単位の種別／単位数	講義 ／ ――― ／ ２単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業（100 分）＋自学自習（200 分）〕×15 回	

〔本科目の目標〕　英語での論理的コミュニケーション能力を、欧米型論理展開を学びつつ習得する。具体的には、提示されたテーマについて調べてプレゼンテーションを行なったり、それについて英語で自分の意見を書いたり話したり、意見の交換を行なったりできるようにする。最終的には、論理的かつ批判的思考に基づいて論を展開し、英語で相手を説得できるような力を育成することを目標としている。

〔本科目の位置付け〕　「科学技術英語」（1 年次後期開講科目）の発展・応用レベル。したがって同科目を予め履修していることが望ましい。

〔学習上の留意点〕　毎回提示される課題（予習・復習）に取り組み、学習内容の理解および洞察的思考能力を養うこと。英和・和英辞典持参のこと。与えられた課題に対し、自発的な姿勢で取り組むこと。社会的な物事について真剣に考えることが嫌いな学生の受講は勧めない。ディスカッション、プレゼンテーション等、人前で英語で自分の意見を述べる活動が多い。2 回連続欠席すると、講義および学習内容の理解が困難となる。基本的に授業中の言語は英語を使用する。

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. 聞く 2. 読む 3. 話す 4. 書く		□ 授業項目 5～8 で得た知識を用いて、与えられた課題の中で授業項目 1～4 の技能を使った活動を行うことができる。	当該の章の英文を読み概要を把握すると共に、その章での論点についてあらかじめ考えてくること。
5. 情報発信者の役割(理論・実践)	7	□ 授業の中で授業項目 5～8 で学んだ内容を実践し、英語コミュニケーション能力の一部として身につけることができる。	
6. グローバライゼーション(理論・実践)	7		
7. 形式論理学(理論・実践)	7		
8. 非形式論理学(理論・実践)	7	□ 授業項目 5～8 の内容について理解することができる。	
--- 期末試験 ---	2	授業項目 1～8 について達成度を評価する。	
試験答案の返却・解説		試験答案の解説を行なうことで，誤った部分を理解することができる。	

〔教科書〕　「From Daily Topics to World Issues: Health & Environment from VOA」 安浪誠祐, Richard S. Lavin 編著　　松柏社
〔参考書・補助教材〕　英和･和英辞書は既に購入しているもので可

〔成績評価の基準〕　定期試験 (50%)＋レポート(50%) - 授業態度(上限 20%)

〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕　2-3 , 4-3
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕　2-3 , 4-3
〔JABEE との関連〕　(a) , (f)

Memo